

『ビオトープで遊ぼう』～水生生物の観察～ における地域貢献

技術センター フィールド科学系部門

塩路 恒生，青山 幹男

環境管理部門

清水 高

1. はじめに

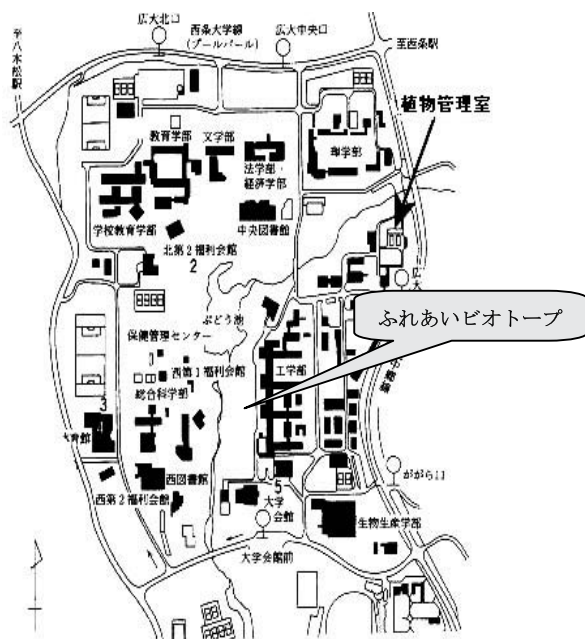
広島大学第57回大学祭において、小学生・幼稚園児を対象とした地域社会の親子に自然豊かなキャンパスの情報公開と水生生物との触れ合いの場を提供することを目的に「ふれあいビオトープ」を会場として大学祭企画を実施したので報告する。

2. ふれあいビオトープ

広島大学工学部の西斜面とその水田跡地は、学内に残されている里山的自然で、貴重な生物が棲息しています。これらのエリアはいままで「工学部ビオトープ」として維持管理されてきました。2008年4月広島大学総合博物館によりキャンパスの自然区域を利用した自然散策道『発見の小径』が整備され、現在そのゾーンの1つ「ふれあいビオトープ」として活用されています。



アカマツ林と角脇川に囲まれ、湧き水の
流れ込む自然豊かな「ふれあいビオトープ」



3. ふれあいビオトープの生物相

(1) 植物

ヒルムシロ、コナギ、キセルアザミ、サワシロギク、アキノキリンソウ、サワヒヨドリ、ユウスゲ、ヌマトラノオ、ヤマラッキョウ、サギソウ、モウセンゴケ、サワギキョウ、ササユリ、キキョウ、オミナエシなど



ササユリ



オミナエシ

(2) 生き物

ニホンアカガエル, トノサマガエル, シュレーゲルアオガエル, アカハライモリ, サワガニ, ミズカマキリ, マメゲンゴロウ, コツブゲンゴロウ, チビミズムシ, ヘイケボタル, アメンボ, マツモムシ, オオコオイムシ, カワニナ, ハッチョウトンボ, アオイトトンボ, ギンヤンマ, メダカ (大学近郊のため池より移入) など



ニホンアカガエル



アカハライモリ



ヤゴ (ギンヤンマ系)



マメツブゲンゴロウ

4. 大学祭参加企画について

日時：平成20年11月2日 11:00~17:00

場所：ふれあいビオトープ (角脇川護岸東側)

主催：技術センター

技術センタースタッフ

| 担当 | 氏名 | 所属 |
|--------|-------|------------|
| 受付 | 清水 高 | 環境管理部門 |
| 受付 | 輝平 盛重 | 理工学系部門 |
| プレゼント係 | 下川 久義 | 理工学系部門 |
| プレゼント係 | 平松正太郎 | 理工学系部門 |
| 観察係 | 塩路 恒生 | フィールド科学系部門 |
| 観察係 | 宇都 武司 | フィールド科学系部門 |
| 観察係 | 山口 信雄 | フィールド科学系部門 |
| 観察係 | 坂下 英樹 | 環境管理部門 |
| 事前準備 | 青山 幹男 | フィールド科学系部門 |
| 事前準備 | 下岡 丈次 | 環境管理部門 |
| 事前準備 | 渡辺 文雄 | 理工学系部門 |

*9月30日にビオトープの整備・清掃, 10月31日に企画準備を行った。

当日の企画内容

【企画1】

虫取り網によるメダカ, 水生生物の捕獲と観察
幼稚園児・小学生の子供たちによる生き物との体験の場を提供した。

【企画2】

メダカ, ハナショウブ苗のプレゼント

子供たちの捕まえたメダカを3~4匹, 1リットルのペットボトルに入れてプレゼントした。

【企画3】

生き物の観察

捕まえた水生生物を小型水槽に入れて展示解説した。臨界実験所・山口職員の発案により, 海の生き物の展示, 顕微鏡によるプランクトンの観察を行った。ウミホタルもプレゼントした。

【企画4】

お絵かきコーナー

子供たちにクレヨン・色鉛筆を提供し, 捕まえた生き物を自由にお絵かきしてもらった。

【企画5】

ビオトープの生き物・植物のパネル展示

夏から秋にかけてビオトープで見られる花や生き物のスケッチ画を展示した。

参加者：大人434名, 小学生252名, 幼稚園・保育所86名, その他18名

合計 251組, 794名

(参考：第1回168名, 第2回276名)

*当日は, 大学祭スタンプラリーの企画チェックポイントとしても協力した。

当日の写真



受付・大学祭スタンプラリー



メダカプレゼントコーナー



ビオトープでの生き物との触れ合い



ハナショウブ苗のプレゼント



自然との体験を楽しむ親子づれ



水生生物観察コーナー



海の生き物観察コーナー



ビオトープに咲く花の展示



顕微鏡によるプランクトンの観察



お絵かきコーナー

5. 大学でビオトープ企画を行う意義

広島大学キャンパス中央部の谷あいには統合移転する前から形成されていた里地生態系が残されており、約30種類の絶滅危惧種を含む生物が棲息・自生している。このような里地生態系はわが国における長年の農耕文化と結びついて成立してきたものであり、そこに見られる生き物は私たちの暮らしの中で親しまれてきた。しかし、化石燃料に頼る生活スタイルの変化や農業・土木技術の発展により里地生態系そのものが放置・破壊されている。近年は、地球温暖化やリサイクル、少資源、環境汚染などの環境問題に対する関心が高くなり、また各地でさまざまな生き物の保護活動が行われる状況の中で、学内の自然環境を活用した環境活動が必要であると考える。

目標とするビオトープの姿

柴刈りが行われていた明るい里山
山際の湧き水が流れる湿地
稲作文化を支えたため池・水路・水田の
水辺

大学で行っているビオトープ管理

ビオトープ管理 = 自然生態系の保全

- ・里山...落葉期に笹や低木類の下刈り．ミツバツツジ，アセビなどの景観を作る種類は残す．
- ・湿地...落葉期に笹や低木類の下刈り，初夏に大型草本の刈り取り．
- ・水辺...冬～春に池や水路の土上げ，春から夏に通路の草刈り．繁茂した水草類の間引きや刈り取り．

6. ふれあいビオトープにおける地域貢献活動

ふれあいビオトープにおいて，広島大学総合博物館との連携によりキャンパスの豊かな自然を情報公開していくことを目指しています．学内の里地生態系は貴重な環境教育の教材であり，この豊かな環境を利用して技術センタースタッフが個々の専門を生かし，幼稚園・小学生を対象とした体験学習や学生・社会人などを対象とした観察会などの企画・運営に協力しています．



附属幼稚園の体験学習



第7回フィールドナビ
『サギソウが咲く湧水溜池の生物』

7. おわりに

ビオトープ企画は朝からたくさんの来場者があった．事前に準備したメダカ配布用のペットボトル100個も午後3時すぎには全部配布した．虫取り網はやはり小さい子供が使用することもあり，かなり破損した．これらの消耗品は毎年適宜更新が必要であると思われる．今年は観察コーナーを充実し，また海の生き物なども設け，来場者には盛況だった．アンケートより「自然のなかで親子で楽しい体験ができた」「いろんな生き物がいるのに驚いた」「環境の大切さを感じた」「子供がメダカを触れないのに驚いた」などの意見が得られた．この企画も今回で3回目ということで大学祭企画として定着しつつあるのと，大学祭スタンプラリーのポイントとして協力した影響もあり来場者が急増した．当日は8人のスタッフにて運営したが，スタッフの数としては今回の来場者に対応するには不十分であった．次回からは過重な企画にならないように企画の規模・内容を検討していきたい．また同時にスタッフの人員確保も考慮しなければならないと思われる．

最後に，現在社会において子供たちがさまざまな体験することにより多くの感性を育てていくことは有意義なことと考える．ビオトープにおいてそのような体験の場をこれからも提供していきたい．